

## 看護学生の看護のイメージと個人要因との関連について

鈴木美代子, 井上都之, 高橋有里, 三浦奈都子,  
及川正広, 平野昭彦, 菊池和子

### Image of nursing in nursing students, and associated factors

Miyoko Suzuki, Satoshi Inoue, Yuri Takahashi, Natsuko Miura  
Masahiro Oikawa, Akihiko Hirano, Kazuko Kikuchi

#### 要 旨

本研究の目的は、看護学生1～3年生の看護のイメージの特徴を明らかにし、その関連要因について検討することである。Osgood'sの意味微分法による32項目と個人要因を用いて横断的に質問紙調査を実施した。対象者は、1年生71名、2年生89名、3年生58名の合計218名を分析対象とした。

分析の結果、看護の肯定的イメージの平均得点は、1年生が最も高く、2年生は3学年で最も低い値を示した。看護のイメージについて探索的因子分析を行った結果、「社会的価値」「職業的専門性」「職業の魅力」「人間的内面性」の4因子が抽出できた。

個人要因との関連では、看護職になることを目指し入学した学生は、肯定的に看護のイメージを感じており、反対に入学動機が曖昧な学生はネガティブにとらえている傾向にあった。特に「社会的価値」と「職業の魅力」因子で、1年生と2年生の間に有意差があった。その要因として看護学実習での経験が影響したものと考えられ、学習過程にそって学生個人に応じた教育的支援が重要であることが示唆された。

キーワード：看護学生、看護のイメージ、因子構造、学年間の比較、看護教育

#### I. はじめに

多くが青年期にある看護学生は、“自分とは何か”の「自我同一性：ego identity; Erikson, E.H.」の確立、すなわち、職業、価値、家庭、性、政治、宗教など多方面からの同一性の統合という重要な発達課題をもっている。すなわち学生は、「自分にとって仕事とは何か、社会の中で仕事を通じて自分はどのようなものであるか、ありたいか等の主体的意識や感覚、職業を通じての自分らしさを確かめ、自分らしさを生かし育てていく職業的姿勢」<sup>1)</sup>の、職業的アイデンティティの形成が重要な課題となる。そして、学生が職業的アイデンティティの形成を目指す過程は、生き方、価値観、興味、

能力、性格などによって方向付けられ、自分の能力に対する様々な試行、好みや興味の追究をとおして、現実からのフィードバックや社会的諸要因との調整・妥協を繰り返しながら模索していくもの<sup>2)</sup>、といわれる。

一般に職業的アイデンティティは、その職業に就いてから形成されるといわれるが、看護学生の場合、国家資格を得るために専門的教育課程を修得する必要がある。専攻がそのまま将来の職業へと結びつくことから、すでに職業的アイデンティティの形成は入学前からはじまっており、早期完了型が特徴である<sup>3)</sup>、といわれている。つまり看護学生は、入学と同時に看護職へと自我を同一化させていくこ



とが求められ、専門的に看護を学ぶ過程で職業への価値や意味を見出し、方向性を模索・追求しながら発展させていくと考える。

ところが、看護学生の職業的価値観は多様化しており、学生は必ずしも看護職を目指し入学するわけではない。また、生活体験の不足や学習の理解不足から生じる現実とのギャップ、人間関係がうまく図れないなど様々な個別の問題に直面する学生も少なくない。白鳥<sup>2)</sup>は、教育学専攻の学生が実習体験後に職業レディネスと自我状態が高まるのに対し、看護学生はむしろ専門教育や実習体験によってそれらは低下し、職業的同一性が拡散傾向に向かうことを指摘している。すなわち学生は「自分は何をやりたいのか、そのために何をすべきなのか」といった、将来の職業への方向性が見出せなくなることで、現実的環境への適応や学問への興味・意欲が低下してしまうといったアイデンティティの拡散を引きこすことが懸念される<sup>4)</sup>。

看護学生が自分自身の職業や将来について真剣に考え、主体的に職業に対する価値、方向性を模索・追究しながら、職業的アイデンティティを確立していけるようサポートしていくことは、効果的な教育を遂行する上で重要である。そのためには、看護学生の職業に対する意識と職業的アイデンティティの発達過程について理解することは必要と考える。本研究では、こうした看護学生の職業的アイデンティティの形成には、看護師への好イメージとロールモデルとの出会いなどが大きく関わっているとの研究報告<sup>5)</sup>から、看護学生が抱く看護のイメージに着目した。イメージ(image)は、「具体的実証的な知識によるよりも直感的感情的な印象によって各個人に形成される考え、態度、概念などを意味する」<sup>6)</sup>が、K. E. ボウルディング<sup>7)</sup>は、人間の行動はイメージに依存し「ある人の過去経験の総合的結果としてイメージができあがる」と述べている。また、水島は「イメージはさまざまな思考的操作をうけながらも、現実的なものを保存する」<sup>8)</sup>と述べており、イメージは現実的、経験的、直感的に反映された考えや態度と理解することができる。

一般に、人の社会的行動は、必ずしも具体的・実証的知識に基づくものだけではなく、事象に対する漠然としたイメージに左右されるこ

とも多い<sup>9)</sup>ことから、学生が抱く看護のイメージは、多分に学生の学習態度や動機付けに影響を与えると考える。

そこで本研究では、看護学生の学習実態を把握する一助として看護のイメージに着目し、看護学生の看護のイメージの特徴とそれに関連する要因について検討する。

## II. 研究目的

本研究の目的は、看護学生の職業的アイデンティティの形成過程を理解する一助として「看護のイメージ」に着目し、看護学生1～3年生の看護のイメージの特徴を明らかにし、看護のイメージと個人要因との関連について検討することで、教育的支援への示唆を得ることである。

## III. 用語の定義

本研究における「看護のイメージ」とは、職業的アイデンティティを形成する一要因として、看護学生が専門的に看護を学ぶ過程の中で、現実的、経験的、直感的に反映された看護に対する考えや態度とする。

## IV. 研究方法

### 1. 調査対象

A大学看護学部において、2010年9月に在籍する1年次生91名、2年次生92名、3年次生89名、合計272名を対象とした。

### 2. データ収集方法

質問紙を用いた横断的調査を実施した。対象者には、研究者がかかわる授業以外の集合的機会に、無記名の自記式質問紙を一斉配布した。研究代表者が、研究の趣旨と研究目的・方法および倫理的配慮について口頭と文書で説明し、同意が得られた場合にのみ質問紙への回答を求めた。回収方法は、授業に影響することがないように配慮し、回収箱を授業以外に学生が自由に出入りできるラウンジに設置し、2週間の期間をおいた留置回収法とした。

### 3. 調査内容

#### 1) 看護のイメージについて

看護のイメージ尺度として広く用いられている、Osgood (1952)の意味微分法(Semantics Differential Method; 以下SD法)を採用した。意味尺度の構成は、真鍋ら<sup>10)</sup>や曾根原ら<sup>11)</sup>



の先行研究をもと、SD法の情緒的内容の「態度」と「人間性」に関する項目を選択し、このうち項目対が反対語になっていない表現や言葉の意味が曖昧なものをのぞき、直感的に判断可能な形容詞対32項目で構成した。「態度」に関する項目には、「やりがい性、価値性、自由性、安定性、意欲性、慎重性、確実性、責任感、重要性、勤勉性、進歩性、科学性、充実性、自立性、専門性、高尚性」を、「人間性」に関する項目には、「魅力性、好感性、親しみ性、穏やかさ、理性、知性、礼儀性、温かさ、親切性、協調性、清潔性、積極性、優しさ、おもしろさ、明るさ、楽しさ」のそれぞれ16項目を選択した。

評定は7段階で、ポジティブなイメージを左側にネガティブなイメージ右側に置き、中心を「どちらでもない」として、対極に距離が隔たるにともない「やや」、「かなり」、「非常に」の用語を明示した。評価・活動性・力量性などを意味する形容詞対項目の意識化の偏りを少なくするために、各項目の配列は形容詞をランダムに並び替えた無作為配列法で尺度を構成した。

#### 2) 個人属性要因について

個人属性要因には、年齢、性別のほか、看護のイメージに影響を与え得る要因として、“本大学を志望した動機”“看護学部を選択した理由”“卒業後の志望進路”“家族に医療職がいるか”“医療の受療経験はあるか”について、制限応答式で質問内容を構成した。A大学を志望した理由では、「オープンキャンパスなど実際に来校し興味をもったから」「パンフレットやHPを見て興味をもったから」「公立の大学だから」「4年制の大学だから」看護学部を選択した理由では、「看護職になることが自分の夢だから」「医療関係の分野に興味があるから」「資格をとれば就職に困らないから」「家族や知人にすすめられたから」「進路相談の先生にすすめられたから」とした。卒業後の志望の進路では、「看護職として働きたい」については、その職種について、看護師、保健師、助産師、養護教諭、その他から選択してもらい、「進学したい」「看護とは別の分野で働きたい」とした。医療機関を利用したことはあるかは、「利用したことがもしくは現在利用している」「利用したことがない」、

家族に保健医療関係職がいるかについては、「いる」「いない」で、その関係性と職種について回答を求めた。

#### 4. 倫理的配慮

本研究は岩手県立大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。対象者には研究の目的および趣旨を説明した上で、協力は本人の自由意思に基づくこと、本調査は成績とは無関係に実施し拒否しても不利益がないこと、質問紙は無記名で記入し結果は全てデータ化するため、一連の研究過程において個人情報保護の厳守について、口頭および文書で説明し、同意が得られた場合にのみ回答を求めた。

#### 5. 調査期間

調査期間は、2010年9月～2011年1月で、1年生は、2010年11月、2年生は、2010年9月、3年生は、2011年1月にそれぞれ実施した。

#### 6. 対象者の学習背景

##### 1) 1年生

1年次後期は、前期に続き教養科目と看護専門科目の看護学のベースとなる概論のほか、基礎看護技術に関する演習を含む授業が開始している。

##### 2) 2年生

2年次後期は、看護専門科目の各看護学専門領域の概論を履修し、7日間の基礎看護学実習Ⅱが終了したところである。1年次後期には、はじめての基礎看護学実習Ⅰを経験している。

##### 3) 3年生

3年次は、各看護学専門領域の各論の授業が終了し、後期から開始している専門領域看護学実習6領域のうち、4領域の実習が終了したところである。

#### 7. 分析方法

看護のイメージに関するSD法32項目は、7段階評定の肯定的イメージが高い順に7～1点を配し得点化し、項目平均値と中央値、標準偏差を算出した。各項目の肯定的イメージを左側に、否定的イメージを右側に分け、3学年の各項目平均値を示したプロフィール表を作成し、3学年の比較をKruskal-Wallis検定で行った。

次にSD法32項目の信頼性を確認してから、探索的因子分析を行い因子構造につい



て検討をした。看護のイメージと個人属性要因との関連をみるために、抽出因子と個人属性要因群分け間の相関係数（Pearsonの関数相関係数）を算出し、抽出因子を従属変数に個人属性要因の群分けを独立変数として一元配置分散分析を行い、多重比較をBonferroni法（5%水準）で実施した。分析には、統計解析ソフトSPSS17.0J for Windowsを使用した。

## V. 結果

### 1. 対象者の概要

分析対象者は、有効回答として得られた1年生71名（回答率76.3%）、2年生89名（回答率96.7%）、3年生58名（回答率66.7%）合計218名で、女性204名93.6%、男性14名6.4%であった。対象者の平均年齢(SD)は、19.7(±1.1)歳だった。対象者の個人属性要因の概要を表1に示した。

“大学を志望した動機”では、「4年制の大学だから」55.2～59.2%が最も多く、半数

以上を占めていた。“看護学部を選択した理由”は、「看護職になることが夢だった」32.6～47.7%、「医療関係の分野に興味があった」22.4～36.0と多かった。“卒業後の進路志望”では、「看護師志望」45.1～74.1%が大半を占め、次いで「助産師志望」「保健師志望」の順だった。「まだ決めていない」は1年生で6名、2,3年生は1名が回答した。“医療を受けたことがあるか”では、「ある」が26.8～53.4%で割合は学年進行とともに高くなり、“家族に医療職はいるか”は、半数が「いる」45.1～55.2%と回答した。

### 2. プロフィール表の概観と学年間の比較

看護のイメージに関するSD法32項目の項目平均値(Mean)と中央値(Medan)、標準偏差値(SD)を算出した(表2)。プロフィール表は、7段評定の「どちらでもない:4点」を中央におき右に寄るほど肯定的イメージで7点とし、左に寄るほどネガティブなイメージで1点として各項目の平均値

表1 対象者の個人属性要因の概要

| 項目                  | 1年生<br>n = 71 | 2年生<br>n = 89 | 3年生<br>n = 58 |
|---------------------|---------------|---------------|---------------|
| 大学を志望した動機           | 人数 (%)        | 人数 (%)        | 人数 (%)        |
| ・オープンキャンパスなど実際に来校して | 12(16.9)      | 6(6.7)        | 3(5.2)        |
| ・パンフレットやHPを見て興味をもった | 3(4.2)        | 6(6.7)        | 1(1.7)        |
| ・4年制の大学だから          | 42(59.2)      | 51(57.3)      | 32(55.2)      |
| ・公立の大学だから           | 7(9.9)        | 16(18.0)      | 12(20.7)      |
| ・その他(自宅から近いから)      | 7(9.9)        | 10(11.2)      | 10(17.2)      |
| 看護学部を選択した理由         |               |               |               |
| ・看護職になることが自分の夢だった   | 34(47.9)      | 29(32.6)      | 24(41.4)      |
| ・医療分野に興味がある         | 19(26.8)      | 32(36.0)      | 13(22.4)      |
| ・資格とれば就職に困らない       | 9(12.7)       | 20(22.5)      | 11(19.0)      |
| ・家族や知人にすすめられた       | 6(8.5)        | 4(4.5)        | 7(12.1)       |
| ・進路教員にすすめられた        | 2(2.8)        | 3(3.4)        | 2(3.4)        |
| ・その他                | 1(1.4)        | 1(1.1)        | 1(1.7)        |
| 卒業後の進路志望            |               |               |               |
| ・看護職(看護師)として働きたい    | 32(45.1)      | 46(51.7)      | 43(74.1)      |
| ・看護職(助産師)として働きたい    | 7(9.9)        | 14(15.7)      | 8(13.8)       |
| ・看護職(保健師)として働きたい    | 13(18.3)      | 11(12.4)      | 3(5.2)        |
| ・看護職(養護教諭)として働きたい   | 8(11.3)       | 11(12.4)      | 2(3.4)        |
| ・専門性を高め進学したい        | 5(7.0)        | 4(2.2)        | 1(1.7)        |
| ・その他(未定、別の職種)       | 6(8.5)        | 1(1.1)        | 1(1.7)        |
| 医療受療経験の有無           |               |               |               |
| ・経験あり               | 19(26.8)      | 31(34.8)      | 31(53.4)      |
| ・経験なし               | 52(73.2)      | 58(65.2)      | 27(46.6)      |
| 家族に医療関係職がいるか        |               |               |               |
| ・いる                 | 32(45.1)      | 47(52.8)      | 32(55.2)      |
| ・いない                | 39(54.9)      | 42(47.2)      | 26(44.8)      |

表2 看護のイメージSD法32項目の得点結果と学年間の比較

| 質問項目              | 1年生         |        |           | 2年生         |        |           | 3年生         |        |           | ノンパラメトリック検定<br>Kruskal-Wallis 検定 | 多重比較<br>Bonferroni 法 | 1-T相関<br>Spearman 相関 |
|-------------------|-------------|--------|-----------|-------------|--------|-----------|-------------|--------|-----------|----------------------------------|----------------------|----------------------|
|                   | Mean(SD)    | Median | Range     | Mean(SD)    | Median | Range     | Mean(SD)    | Median | Range     |                                  |                      |                      |
| 1 魅力的な-魅力的でない     | 5.41 (1.10) | 5.00   | 2-7       | 5.11 (1.15) | 5.00   | 1-7       | 5.29 (1.17) | 5.00   | 1-7       | $\chi^2 = 2.80, P = .247$        |                      | .599***              |
| 2 好きな-嫌いな         | 4.99 (0.93) | 5.00   | 3-7       | 4.51 (1.10) | 5.00   | 1-6       | 4.72 (1.15) | 5.00   | 1-6       | $\chi^2 = 5.57, P = .062$        |                      | .582***              |
| 3 おもしろい-つまらない     | 4.77 (1.08) | 5.00   | 1-7       | 4.74 (0.97) | 5.00   | 2-7       | 4.91 (1.11) | 5.00   | 2-7       | $\chi^2 = 2.05, P = .358$        |                      | .451***              |
| 4 やりがいのある-やりがいのない | 6.28 (0.97) | 7.00   | 3-7       | 6.12 (0.88) | 6.00   | 3-7       | 6.12 (0.80) | 6.00   | 3-7       | $\chi^2 = 3.32, P = .190$        |                      | .629***              |
| 5 価値のある-価値のない     | 6.32 (0.97) | 7.00   | 2-7       | 6.16 (0.95) | 6.00   | 4-7       | 6.28 (0.87) | 6.00   | 4-7       | $\chi^2 = 1.69, P = .430$        |                      | .626***              |
| 6 意欲的な-無気力な       | 5.61 (1.10) | 6.00   | 2-7       | 5.17 (1.16) | 5.00   | 2-7       | 5.26 (1.26) | 5.50   | 2-7       | $\chi^2 = 5.72, P = .057$        |                      | .619***              |
| 7 自由な-不自由な        | 3.31 (1.17) | 3.00   | 1-6       | 2.89 (1.09) | 3.00   | 1-5       | 3.03 (1.03) | 3.00   | 1-5       | $\chi^2 = 5.09, P = .079$        |                      | .085                 |
| 8 親しみやすい-親しみにくい   | 4.52 (1.09) | 5.00   | 2-7       | 3.90 (1.07) | 4.00   | 1-7       | 4.26 (1.32) | 5.00   | 1-7       | $\chi^2 = 12.62, P = .002$       | 1年生>2年生**            | .411***              |
| 9 楽しい-苦しい         | 4.42 (1.08) | 4.00   | 2-7       | 3.82 (1.23) | 4.00   | 1-7       | 3.79 (1.24) | 4.00   | 1-7       | $\chi^2 = 11.33, P = .003$       | 1年生>2年生**            | .504***              |
| 10 明るい-暗い         | 4.77 (0.96) | 5.00   | 3-7       | 4.11 (1.05) | 4.00   | 1-7       | 4.28 (0.95) | 4.00   | 1-7       | $\chi^2 = 17.05, P = .000$       | 1年生>2年生***           | .524***              |
| 11 安定した-不安定な      | 5.79 (1.07) | 6.00   | 3-7       | 5.63 (1.22) | 6.00   | 2-7       | 5.93 (1.02) | 6.00   | 2-7       | $\chi^2 = 1.84, P = .398$        |                      | .443***              |
| 12 責任感の強い-無責任な    | 6.51 (0.75) | 7.00   | 4-7       | 6.48 (0.68) | 7.00   | 5-7       | 6.41 (1.20) | 7.00   | 5-7       | $\chi^2 = 0.80, P = .671$        |                      | .467***              |
| 13 穏やかな-激しい       | 4.41 (1.19) | 4.00   | 1-6       | 3.54 (1.28) | 4.00   | 1-7       | 3.64 (1.67) | 3.00   | 1-7       | $\chi^2 = 19.17, P = .000$       | 1年生>2年生***           | .392***              |
| 14 重要な-重要でない      | 6.44 (0.84) | 7.00   | 3-7       | 6.43 (0.78) | 7.00   | 4-7       | 6.52 (0.71) | 7.00   | 4-7       | $\chi^2 = .42, P = .812$         |                      | .535***              |
| 15 慎重な-軽率な        | 6.31 (0.87) | 7.00   | 3-7       | 6.22 (0.99) | 7.00   | 2-7       | 6.29 (0.94) | 7.00   | 2-7       | $\chi^2 = .26, P = .880$         |                      | .446***              |
| 16 勤勉な-怠慢な        | 6.14 (0.83) | 6.00   | 4-7       | 6.17 (0.96) | 6.00   | 3-7       | 6.14 (0.89) | 6.00   | 3-7       | $\chi^2 = 3.70, P = .831$        |                      | .632***              |
| 17 進歩的な-保守的な      | 5.85 (1.07) | 6.00   | 3-7       | 5.81 (1.29) | 6.00   | 1-7       | 6.12 (1.01) | 6.00   | 1-7       | $\chi^2 = 2.55, P = .279$        |                      | .605***              |
| 18 温かい-冷たい        | 6.07 (0.82) | 6.00   | 4-7       | 5.22 (1.27) | 5.00   | 1-7       | 5.38 (1.20) | 5.00   | 1-7       | $\chi^2 = 20.83, P = .000$       | 1年生>2年生***           | .647***              |
| 19 親切な-不親切な       | 5.92 (0.94) | 6.00   | 4-7       | 5.13 (1.27) | 5.00   | 1-7       | 5.26 (1.18) | 5.00   | 1-7       | $\chi^2 = 19.57, P = .000$       | 1年生>2年生***           | .669***              |
| 20 確実な-不確実な       | 5.83 (1.05) | 6.00   | 3-7       | 5.69 (1.11) | 6.00   | 3-7       | 5.50 (1.05) | 5.00   | 3-7       | $\chi^2 = 3.45, P = .179$        |                      | .541***              |
| 21 清潔な-不清潔な       | 6.15 (1.18) | 7.00   | 2-7       | 6.10 (1.01) | 6.00   | 3-7       | 5.86 (1.18) | 6.00   | 3-7       | $\chi^2 = 3.82, P = .148$        |                      | .497***              |
| 22 理性的な-感情的な      | 5.37 (1.19) | 5.00   | 3-7       | 5.25 (1.20) | 5.00   | 2-7       | 4.95 (1.25) | 5.00   | 2-7       | $\chi^2 = 2.85, P = .241$        |                      | .487***              |
| 23 科学的な-非科学的な     | 5.45 (0.94) | 6.00   | 3-7       | 5.49 (0.99) | 6.00   | 3-7       | 5.33 (1.15) | 5.00   | 3-7       | $\chi^2 = .66, P = .718$         |                      | .461***              |
| 24 知的な-知的でない      | 5.76 (0.95) | 6.00   | 3-7       | 5.93 (0.98) | 6.00   | 2-7       | 5.74 (0.95) | 6.00   | 2-7       | $\chi^2 = 2.18, P = .337$        |                      | .592***              |
| 25 礼儀正しい-行儀悪い     | 5.65 (0.96) | 6.00   | 4-7       | 5.02 (1.35) | 5.00   | 1-7       | 5.31 (1.21) | 5.00   | 1-7       | $\chi^2 = 8.44, P = .015$        | 1年生>2年生**            | .566***              |
| 26 高尚な-低俗な        | 5.38 (1.09) | 5.00   | 3-7       | 4.96 (1.09) | 5.00   | 3-7       | 5.10 (1.25) | 5.00   | 3-7       | $\chi^2 = 5.19, P = .052$        |                      | .564***              |
| 27 充実した-充実していない   | 5.86 (0.95) | 6.00   | 3-7       | 5.52 (1.13) | 6.00   | 2-7       | 5.88 (0.90) | 6.00   | 2-7       | $\chi^2 = 4.26, P = .119$        |                      | .663***              |
| 28 自立した-依存した      | 5.55 (1.07) | 6.00   | 2-7       | 5.36 (1.07) | 5.00   | 2-7       | 5.62 (0.99) | 6.00   | 2-7       | $\chi^2 = 2.54, P = .281$        |                      | .507***              |
| 29 積極的な-消極的な      | 5.73 (0.96) | 6.00   | 3-7       | 5.49 (1.06) | 6.00   | 3-7       | 5.72 (1.04) | 6.00   | 3-7       | $\chi^2 = 1.99, P = .370$        |                      | .578***              |
| 30 協調的な-非協調的な     | 6.04 (0.92) | 6.00   | 4-7       | 5.57 (1.17) | 6.00   | 1-7       | 5.90 (0.91) | 6.00   | 1-7       | $\chi^2 = 6.72, P = .035$        | 1年生>2年生*             | .673***              |
| 31 やさしい-きびしい      | 5.79 (1.11) | 6.00   | 3-7       | 4.37 (1.68) | 4.00   | 1-7       | 4.36 (1.63) | 4.00   | 1-7       | $\chi^2 = 37.21, P = .000$       | 1年生>2年生***           | .584***              |
| 32 専門的な-非専門的な     | 6.46 (0.86) | 7.00   | 3-7       | 6.27 (0.99) | 7.00   | 1-7       | 6.60 (0.62) | 7.00   | 1-7       | $\chi^2 = 5.09, P = .079$        | 1年生>3年生***           | .596***              |
| 全32項目の平均値         | 5.59 (0.73) | 5.69   | 3.75-6.81 | 5.26 (0.99) | 5.25   | 3.91-6.44 | 5.36 (0.88) | 5.44   | 4.19-6.75 | $\chi^2 = 13.90, P = .001$       | 1年生>2年生**            | 1.00                 |

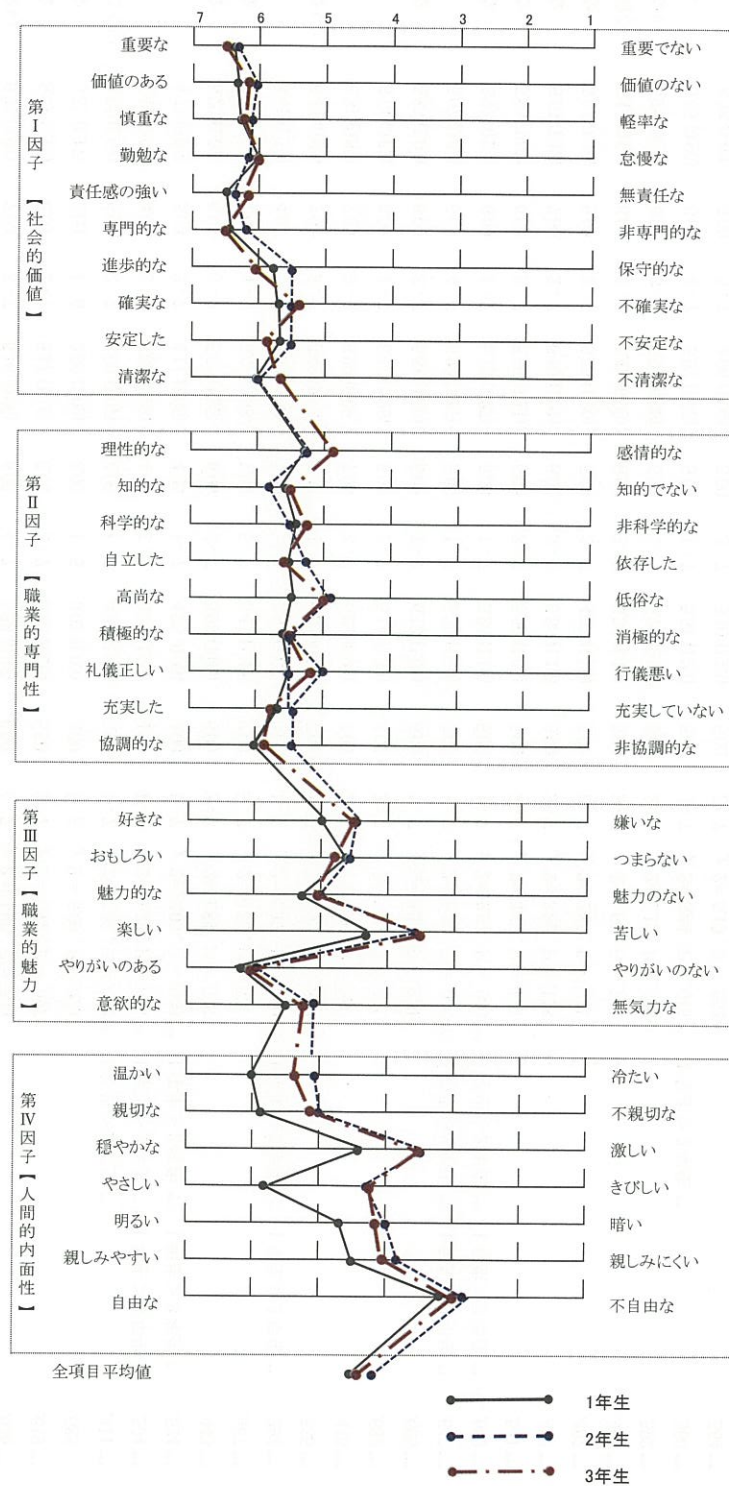
\*p&lt;.05. \*\*p&lt;.01. \*\*\*p&lt;.001



を示した(表3). SD法32項目は全体的に4点以上の肯定的なイメージ傾向にあり, 4点以下のネガティブ寄りだった項目は, 3学年の「自由な」, 2, 3年生の「穏やかな」と「楽しい」だった. 項目平均値が最も高かった項

目は, 「責任感が強い(1年生:6.51 ± 0.75, 2年生:6.48 ± 0.68, 3年生:6.41 ± 1.20)」, 「重要な(1年生:6.44 ± 0.84, 2年生:6.43 ± 0.78, 3年生:6.52 ± 0.71)」, 「専門的な(1年生:6.46 ± 0.86, 2年生:6.26 ± 0.99, 3

表3 3学年の看板のイメージプロフィール表



年生  $6.60 \pm 0.62$ 」だった。最も低かった項目は、「自由な (1年生:  $3.31 \pm 1.17$ , 2年生:  $2.89 \pm 1.09$ , 3年生  $3.03 \pm 1.03$ )」「穏やかな (1年生:  $4.41 \pm 1.19$ , 2年生:  $3.54 \pm 1.28$ , 3年生  $3.64 \pm 1.67$ )」「楽しい (1年生:  $4.42 \pm 1.08$ , 2年生:  $3.82 \pm 1.23$ , 3年生  $3.79 \pm 1.24$ )」であった。プロフィール表の概観では、3学年のイメージ傾向はほぼ類似していたが、全体的に1年生が高得点の傾向にあり、全項目平均値の比較では、1年生 ( $5.59 \pm 0.73$ ) > 3年生 ( $5.36 \pm 0.88$ ) > 2年生 ( $5.26 \pm 0.99$ ) の順だった。

各項目について得点分布の正規性が確認できなかったため (Kolmogorov-Smirnov 検定), 全ての学年の比較を Kruskal-Wallis 検定で行い, 多重比較は Bonferroni 法で有意確率を修正して行った。分析の結果, 学年間で有意差がみとめられた項目は, 「親しみやすい ( $p < .01$ )」「楽しい ( $p < .01$ )」「明るい ( $p < .001$ )」「穏やかな ( $p < .001$ )」「温かい ( $p < .001$ )」「親切な ( $p < .001$ )」「礼儀正しい ( $p < .05$ )」「協調的な ( $p < .05$ )」「やさしい ( $p < .001$ )」全 SD32 項目平均点 ( $p < .001$ ) だった。これらの多重比較では,

表4 看護のイメージの因子分析結果

| S D 3 2 項目                          |                   | 主因子法-プロマックス回転<br>因子負荷量 |                |               |                |
|-------------------------------------|-------------------|------------------------|----------------|---------------|----------------|
|                                     |                   | 第Ⅰ因子<br>社会的価値          | 第Ⅱ因子<br>職業的専門性 | 第Ⅲ因子<br>職業的魅力 | 第Ⅳ因子<br>人間的内面性 |
| 第Ⅰ因子 (10項目) 【社会的価値】 $\alpha = .840$ |                   |                        |                |               |                |
| 14                                  | 重要な - 重要でない       | .69                    | -.08           | .13           | -.06           |
| 5                                   | 価値のある - 価値のない     | .62                    | -.10           | .43           | -.10           |
| 15                                  | 慎重な - 軽率な         | .62                    | .12            | -.13          | -.07           |
| 16                                  | 勤勉な - 怠慢な         | .57                    | .24            | -.12          | .08            |
| 12                                  | 責任感の強い - 無責任な     | .56                    | -.03           | .10           | -.14           |
| 32                                  | 専門的な - 非専門的な      | .48                    | .28            | .03           | -.08           |
| 17                                  | 進歩的な - 保守的な       | .46                    | .27            | .05           | -.02           |
| 20                                  | 確実な - 不確実な        | .41                    | .23            | -.16          | .13            |
| 11                                  | 安定した - 不安定な       | .35                    | .05            | .16           | .03            |
| 21                                  | 清潔な - 不清潔な        | .33                    | .23            | -.08          | .06            |
| 第Ⅱ因子 (9項目) 【職業的専門性】 $\alpha = .841$ |                   |                        |                |               |                |
| 22                                  | 理性的な - 感情的な       | -.13                   | .67            | .02           | -.01           |
| 24                                  | 知的な - 知的でない       | .17                    | .64            | .05           | -.15           |
| 23                                  | 科学的な - 非科学的な      | .09                    | .62            | .01           | -.18           |
| 28                                  | 自立した - 依存した       | -.01                   | .61            | .04           | -.01           |
| 26                                  | 高尚な - 低俗な         | .02                    | .53            | .01           | .11            |
| 29                                  | 積極的な - 消極的な       | .22                    | .46            | .10           | -.06           |
| 25                                  | 礼儀正しい - 行儀悪い      | .06                    | .45            | -.18          | .29            |
| 27                                  | 充実した - 充実していない    | .28                    | .34            | .17           | .06            |
| 30                                  | 協調的な - 非協調的な      | .22                    | .34            | .10           | .21            |
| 第Ⅲ因子 (6項目) 【職業的魅力】 $\alpha = .847$  |                   |                        |                |               |                |
| 2                                   | 好きな - 嫌いな         | -.11                   | .15            | .73           | .12            |
| 3                                   | おもしろい - つまらない     | .04                    | -.01           | .67           | -.02           |
| 1                                   | 魅力的な - 魅力のない      | .19                    | .00            | .65           | .02            |
| 9                                   | 楽しい - 苦しい         | -.33                   | .14            | .56           | .37            |
| 4                                   | やりがいのある - やりがいのない | .55                    | -.11           | .56           | -.10           |
| 6                                   | 意欲的な - 無気力な       | .27                    | -.06           | .52           | .14            |
| 第Ⅳ因子 (7項目) 【人間的内面性】 $\alpha = .774$ |                   |                        |                |               |                |
| 18                                  | 温かい - 冷たい         | .35                    | -.13           | -.06          | .70            |
| 19                                  | 親切な - 不親切な        | .41                    | -.09           | -.13          | .67            |
| 13                                  | 穏やかな - 激しい        | -.30                   | .06            | .05           | .66            |
| 31                                  | やさしい - きびしい       | .03                    | .04            | .02           | .64            |
| 10                                  | 明るい - 暗い          | -.12                   | .01            | .29           | .52            |
| 8                                   | 親しみやすい - 親しみにくい   | -.04                   | -.10           | .32           | .38            |
| 7                                   | 自由な - 不自由な        | -.33                   | -.06           | .17           | .37            |
| 回転後の負荷                              |                   | 7.05                   | 6.60           | 5.08          | 5.25           |
| 寄与率 (%)                             |                   | 28.75                  | 7.63           | 5.19          | 2.77           |
| 累積寄与率 (%)                           |                   | 28.75                  | 36.38          | 41.57         | 44.34          |



主に1年生と2年生, 1年生と3年生にそれぞれ有意差がみられた。

### 3. 探索的因子分析

項目間の信頼性を, I-T 相関分析 (Item-Total Correlation Analysis) と Cronbach's  $\alpha$  係数で確認したところ, 32 項目全体の Cronbach's  $\alpha$  係数は .917 だった。I-T 相関分析の結果, 「自由な」の項目が  $r = .085$  だったが, これを除去した Cronbach's  $\alpha$  係数は .920 と信頼性は確保されていたため 32 全項目で探索的因子分析 (主因子法, プロマックス回転) を行った (表 4)。因子数の決定は, スクリーンプロットで初期解固有値の減退状況から 4 因子が妥当であると判断された。清潔な (.33), 充実している (.34), 協調的な (.34) 親しみやすい (.38) 自由な (.37) の 5 項目が, 因子負荷量が 0.4 未満だったが, 本研究では尺度開発が目的ではなく, また各因子の Cronbach's  $\alpha$  係数の信頼性は得られたためこれらの項目は除外せずに実施した。

各因子の構成項目は, 第 I 因子は, 「重要な」「価値のある」「慎重な」「勤勉な」「責任感が強い」「専門的な」「進歩的な」など, 社会的な価値や重要性に関する項目に高い負荷量を示したことから, 【社会的価値】と命名した。第 II 因子は, 「理性的な」「知的な」「科学的な」「自立した」「高尚な」など, 職業の専門性に関する項目に高い負荷量を示したことから, 【職業的専門性】と命名した。第 III 因子は, 「好きな」「おもしろい」「魅力的な」「楽しい」など, 職業に対する魅力に関する項目に高い負荷量を示したことから, 【職業的魅力】と命名した。第 IV 因子は, 「温かい」「親切な」「穏やかな」「やさしい」「明るい」など, 人間として備わる性質・特性

に関する項目に高い負荷量を示されたことから, 【人間的内面性】と命名した。各因子の内的整合性の信頼性を示す Cronbach's  $\alpha$  係数は, 第 I 因子【社会的価値】.840, 第 II 因子【職業的専門性】.841, 第 III 因子【職業的魅力】.847, 第 IV 因子【人間的内面性】.774 で, 4 因子とも信頼性は確認できた。

抽出された 4 因子の項目平均値 (SD) は, 第 I 因子【社会的価値】6.14 (0.63), 第 II 因子【職業的専門性】5.51 (0.72), 第 III 因子【職業的魅力】5.08 (0.80), 第 IV 因子【人間的内面性】4.47 (0.82) だった。

学年ごとに看護のイメージ 4 因子間の比較を一元配置分散分析で行ったところ, 第 III 因子【職業的魅力】の 1 年生と 2 年生に ( $p < .05$ ), 第 IV 因子【人間的内面性】の 1 年生と 2 年生 ( $p < .001$ ), 1 年生と 3 年生に ( $p < .001$ ) に有意差がみられた (表 5)。因子間の相関 (Pearson の積率相関係数) は, 1 年生は  $r = .473 \sim .691$ , 2 年生は  $r = .279 \sim .732$ , 3 年生は  $r = .290 \sim .562$  で, いずれも有意な相関性がみられたが, 特に第 I 因子【社会的価値】と第 II 因子【職業的専門性】, 第 III 因子【職業的魅力】と第 IV 因子【人間的内面性】にやや強い相関が示された (表 6)。

### 4. 抽出因子と個人属性要因の比較

個人属性要因は, 質問内容にそって群分けを行った。「A 大学を志望した理由」は, 「オープンキャンパスなど実際に来校して興味をもったから」「パンフレットや HP をみて興味をもったから」を『実際興味群], 「4 年生の大学だから」を『大学重視群], 「公立の学校だから」とその他で「家から近かったから」を『条件重視群]の 3 群に分けた。「看護学部を選択した理由」は, 「看護職になる

表5 看護のイメージ因子の学年比較

|          |        | 1 年生 | 2 年生 | 3 年生 | Bonferroni の多重比較 |                                  |
|----------|--------|------|------|------|------------------|----------------------------------|
| 第 I 因子   | 社会的価値  | Mean | 6.18 | 6.10 | 6.17             |                                  |
|          |        | SD   | 0.65 | 0.67 | 0.53             |                                  |
| 第 II 因子  | 職業的専門性 | Mean | 5.64 | 5.40 | 5.51             |                                  |
|          |        | SD   | 0.72 | 0.76 | 0.63             |                                  |
| 第 III 因子 | 職業的魅力  | Mean | 5.26 | 4.93 | 5.10             | 1 年生 > 2 年生 *                    |
|          |        | SD   | 0.76 | 0.75 | 0.88             |                                  |
| 第 IV 因子  | 人間的内面性 | Mean | 4.97 | 4.17 | 4.32             | 1 年生 > 2 年生 ***, 1 年生 > 3 年生 *** |
|          |        | SD   | 0.65 | 0.82 | 0.72             |                                  |

\*  $p < .05$ , \*\*\*  $p < .001$



ことが自分の夢だから」を『自己夢実現群』、「医療関係の職業に興味があるから」を『医療職興味群』、「資格をとれば就職に困らないから」「家族や知人にすすめられたから」「進路相談の先生にすすめられたから」を『推薦安定志向群』の3群に分けた。

“卒業後の志望進路”は、「看護職として働きたい」のうち「看護師」と「助産師」志望を『臨床看護職群』、「保健師」と「養護教諭」を『健康支援看護職群』、「進学したい」を『進学志望群』、「看護職以外の職に就きたい」と「まだ決めていない」を『未定・その他群』の4群に分けた。“最近医療機関を利用したか”については、『受療経験あり群』と『受療経験なし群』，“身近な家族に保健医療職に就いている人はいるか”は、『家族医療職いる群』と『家族医療職なし群』のそれぞれ2群に分けた。

看護のイメージ4因子を従属変数に、個人属性要因群分けの項目平均値を独立変数として一元配置分散分析を行い、多重比較をBonferroni法(5%水準)で行った(表7)。第I因子【社会的価値】の、1年生の看護学部を選択した理由[F(2, 68) = 6.60, p < 0.01]の群分け間で有意差がみられ、多重比較の結果、『自己夢実現群』と『推薦安定志向群』の間に有意差が認められた(p < 0.01)。また第III因子【職業的魅力】の、1年生の本大学を志望した理由[F(2, 86) = 5.37, p < 0.01]と、全学年の看護学部を選択した理由〔1年生:F(2, 68) = 6.40, p < 0.01,

2年生:F(2, 86) = 5.70, p < 0.01, 2年生:F(2, 55) = 6.65, p < 0.01]の群分けでそれぞれ有意差が認められた。多重比較の結果、大学志望動機の『条件重視群』と『実際興味群』に、看護学部選択理由は、3学年の『推薦安定志向群』と『自己夢実現群』に有意差が認められた(p < 0.01)。第II因子【職業的専門性】と第IV因子【人間的内面性】は、いずれの個人属性要因とに有意差は認めなかった。

## VI. 考察

本研究では、学生の心象として形成される「看護のイメージ」が、学生の職業意識と発達過程を理解する一助になると考え、看護学生1～3年生の看護のイメージの特徴を明らかにし、個人属性要因との関連について検討した。

### 1. 看護学生の看護のイメージの特徴

看護学生を対象に行った看護のイメージに関する多くの先行研究では、概して看護学生は好感的イメージ傾向にあり<sup>9), 10), 12) - 14)</sup>、その特徴は、「責任感が強く、重要で、価値がある」の肯定的イメージが高く、「重労働で、自由がない」がネガティブなイメージ傾向にある<sup>9)</sup>といわれているが、本調査でも同様の結果が示された。すなわち、プロフィール表の概観において、平均値が4点以上の肯定的イメージの傾向にあり、「責任感がある」「重要な」「専門的な」「慎重な」「価値がある」などの、職業としての社会的な

表6 学年別看護のイメージの因子相関

|             |        | 社会的価値<br>第I因子      | 職業的専門性<br>第II因子    | 職業的魅力<br>第III因子    | 人間的内面性<br>第IV因子 |
|-------------|--------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------|
| 1<br>年<br>生 | 第I因子   | 1.000              |                    |                    |                 |
|             | 第II因子  | .691 <sup>**</sup> | 1.000              |                    |                 |
|             | 第III因子 | .661 <sup>**</sup> | .473 <sup>**</sup> | 1.000              |                 |
|             | 第IV因子  | .576 <sup>**</sup> | .528 <sup>**</sup> | .608 <sup>**</sup> | 1.000           |
| 2<br>年<br>生 | 第I因子   | 1.000              |                    |                    |                 |
|             | 第II因子  | .732 <sup>**</sup> | 1.000              |                    |                 |
|             | 第III因子 | .458 <sup>**</sup> | .536 <sup>**</sup> | 1.000              |                 |
|             | 第IV因子  | .279 <sup>**</sup> | .448 <sup>**</sup> | .560 <sup>**</sup> | 1.000           |
| 3<br>年<br>生 | 第I因子   | 1.000              |                    |                    |                 |
|             | 第II因子  | .562 <sup>**</sup> | 1.000              |                    |                 |
|             | 第III因子 | .425 <sup>**</sup> | .290 <sup>*</sup>  | 1.000              |                 |
|             | 第IV因子  | .316 <sup>*</sup>  | .302 <sup>*</sup>  | .481 <sup>**</sup> | 1.000           |

Pearsonの積率相関係数

\* p < .05, \*\* p < .01.



表7 学年別個人属性要因の群分けと看護のイメージ因子との一元配置分散分析

| 個人属性要因の群分け  | 1年生                                 |                     |                     |                     | 2年生                                 |                     |                     |                     | 3年生                                 |                     |                     |                     |
|---|-------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
|   | 第I因子<br>社会的<br>価値観                  | 第II因子<br>職業的<br>専門性 | 第III因子<br>職業的<br>魅力 | 第IV因子<br>人間的<br>内面性 | 第I因子<br>社会的<br>価値観                  | 第II因子<br>職業的<br>専門性 | 第III因子<br>職業的<br>魅力 | 第IV因子<br>人間的<br>内面性 | 第I因子<br>社会的<br>価値観                  | 第II因子<br>職業的<br>専門性 | 第III因子<br>職業的<br>魅力 | 第IV因子<br>人間的<br>内面性 |
| 大学を志望した動機   | Mea n (SD) 一元配置分散分析 Bonferroniの多重比較 |                     |                     |                     | Mea n (SD) 一元配置分散分析 Bonferroniの多重比較 |                     |                     |                     | Mea n (SD) 一元配置分散分析 Bonferroniの多重比較 |                     |                     |                     |
| ・オーブンキャンパスなど<br>実際に来校し興味をもった<br>・パソコンやHPを見て興味をもった | 6.37( .60)                          | 5.64( .63)          | 5.54( .53)          | 5.09( .45)          | 6.38( .38)                          | 5.77(.77)           | 5.50( .49)          | 4.52( .54)          | 5.93( .83)                          | 5.00( .09)          | 4.58(1.06)          | 4.07( .91)          |
| ・4年制の大学だから  | 6.16( .69)                          | 5.27( .85)          | 4.93( .82)          | 4.65( .87)          | 6.06( .64)                          | 5.44( .63)          | 5.04( .71)          | 4.29( .93)          | 6.23( .39)                          | 5.37( .48)          | 5.17( .57)          | 4.24( .62)          |
| ・公立の大学だから<br>・その他 (自宅から近いから)                      | 6.13( .67)                          | 5.70( .72)          | 5.22( .80)          | 4.98( .66)          | 6.05( .72)                          | 5.32( .77)          | 4.78( .75)          | 4.06( .83)          | 6.17( .54)                          | 5.59( .67)          | 5.12( .93)          | 4.36( .75)          |
| 看護学部を選択した理由                                       |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |
| ・看護職になることが自分の<br>夢だった                             | 6.39( .56)                          | 5.76( .70)          | 5.50( .61)          | 5.08( .67)          | 6.30( .52)                          | 5.57( .74)          | 5.25( .57)          | 4.44( .78)          | 6.24( .50)                          | 5.64( .56)          | 5.38( .96)          | 4.42( .72)          |
| ・医療分野に興味がある                                       | 6.22( .41)                          | 5.70( .60)          | 5.30( .68)          | 5.03( .59)          | 6.03( .68)                          | 5.36( .80)          | 4.91( .82)          | 4.05( .90)          | 6.31( .51)                          | 5.52( .72)          | 5.36( .41)          | 4.55( .70)          |
| ・資格とれば就職に困らない<br>・家族や知人にすすめられた<br>・進路教員にすすめられた    | 5.75( .82)                          | 5.40( .83)          | 4.77( .88)          | 4.70( .63)          | 5.97( .77)                          | 5.27( .71)          | 4.61( .71)          | 4.01( .72)          | 5.98( .54)                          | 5.33( .64)          | 4.57( .79)          | 4.02( .68)          |
| 卒業後の進路志望  |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |
| ・看護職 (看護師・助産師) と<br>して働きたい                        | 6.19( .68)                          | 5.64( .71)          | 5.22( .77)          | 4.93( .59)          | 6.13( .63)                          | 5.39( .72)          | 4.92( .69)          | 4.20( .79)          | 6.18( .52)                          | 5.53( .66)          | 5.14( .93)          | 4.23( .72)          |
| ・看護職 (保健師・養教) とし<br>て働きたい                         | 6.08( .72)                          | 5.60( .78)          | 5.45( .74)          | 4.99( .76)          | 6.09( .78)                          | 5.50( .85)          | 5.04( .80)          | 4.26( .83)          | 6.13( .60)                          | 5.55( .54)          | 4.94( .78)          | 4.53( .71)          |
| ・専門性を高め進学したい                                      | 6.40( .28)                          | 6.20( .54)          | 5.42( .48)          | 5.40( .51)          | 5.43( .29)                          | 5.19( .34)          | 4.72( .35)          | 3.76( 1.07)         | 5.75( .35)                          | 5.22( .63)          | 5.33( .71)          | 4.71( .40)          |
| ・その他 (未定: 別の職種)                                   | 6.12( .62)                          | 5.26( .64)          | 4.97( .96)          | 4.79( .92)          | 6.13( .71)                          | 5.00(1.06)          | 4.11(1.29)          | 3.19( .81)          | 6.45( .50)                          | 5.11( .79)          | 4.67( .00)          | 4.50(1.31)          |
| 医療受療経験の有無   |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |
| ・経験あり   | 6.19( .47)                          | 5.71( .56)          | 5.25( .48)          | 4.89( .53)          | 6.12( .77)                          | 5.46( .83)          | 5.08( .83)          | 4.22( .63)          | 6.16( .56)                          | 5.38( .62)          | 5.22( .78)          | 4.19( .72)          |
| ・経験なし   | 6.18( .71)                          | 5.62( .77)          | 5.27( .84)          | 5.00( .69)          | 6.08( .62)                          | 5.37( .72)          | 4.84( .69)          | 4.14( .91)          | 6.17( .50)                          | 5.65( .62)          | 4.96( .97)          | 4.46( .71)          |
| 家族に医療関係職がいるか                                      |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |                                     |                     |                     |                     |
| ・いる   | 6.23( .51)                          | 5.59( .68)          | 5.30( .61)          | 4.90( .71)          | 6.18( .64)                          | 5.45( .74)          | 5.06( .71)          | 4.23( .76)          | 6.08( .52)                          | 5.42( .67)          | 5.24( .67)          | 4.47( .69)          |
| ・いない  | 6.14( .75)                          | 5.68( .76)          | 5.24( .87)          | 5.02( .59)          | 6.00( .71)                          | 5.35( .78)          | 4.77( .76)          | 4.04( .88)          | 6.28( .53)                          | 5.61( .58)          | 4.91(1.06)          | 4.13( .74)          |

\* p < .05. \*\* p < .01.



価値や重要性に関する肯定的イメージが高く、「自由な—不自由な」「親しみやすい—親しみにくい」「楽しい—苦しい」「穏やかな—激しい」などの、感情や人間の内面的な特性に関するイメージをネガティブにとらえており、この傾向は3学年に類似していた。看護学生は看護について「価値的側面でのやりがいを認識しつつ、活動的側面での厳しい状況を認識している」といわれる<sup>13)</sup>ように、単に好意的・肯定的なイメージだけではなく、社会的に重要な価値のある職業であると感じている反面、激しく苦しく不自由で親しみにくい職業であるとも感じており、これらの両面でもとらえていることが明らかになった。

因子分析の結果、項目平均値が高かった肯定的イメージの「責任感がある、重要な、専門的な、慎重な、価値がある」は、第I因子の【社会的価値】にまとまり、ネガティブな傾向にあった「親しみやすい、穏やかな、自由な」の項目は、第IV因子の【人間的内面性】にまとまった。第II因子の【職業的専門性】、第III因子の【職業的魅力】の順に項目平均値は高かった。先行研究の概観では、外観的職業へのイメージ、看護職の社会的役割、看護の専門性や知性、人間性や人格的特性などに関する因子、そして否定的・ネガティブな看護のイメージ因子に分けられた。本調査でも、先行研究同様の因子名が抽出されたといえる。しかし、否定的イメージの因子は抽出されなかった。因子間の相関では、第I因子【社会的価値】と第II因子【職業的専門性】が、第III因子【職業的魅力】と第IV因子【人間的内面性】に関連が示された。すなわち、看護について社会的に価値があると感じている学生は同時に職業としての専門性を感じており、また人間的な内面性についてネガティブに感じている学生は職業としての魅力もネガティブな傾向で意識しているという構造が考えられた。

## 2. 看護のイメージの学年間の比較

3学年の看護のイメージの全項目の平均値は、1年生が最も高く、次いで3年生、2年の順で、特に2年生と3年生は、「親しみやすい」「楽しい」「明るい」「温かい」「親切な

「やさしい」などの親和的・人間的な内面性や態度に関する肯定的イメージが1年生に比べ有意に低いという結果が示された。先行研究でも、学年進行とともに看護の肯定イメージは低下するという知見<sup>4)・15)</sup>は多く見られるが、低下するのは短大生で大学生は基礎教養科目があることで肯定的イメージは上昇するという知見<sup>11)</sup>、はじめての基礎看護学実習終了後に肯定的イメージに変化するという知見<sup>16)・18)</sup>もある。本調査では、2年生の看護の肯定的イメージが最も低下するという謝花ら<sup>13)</sup>、石井ら<sup>19)</sup>、大谷ら<sup>20)</sup>の報告を支持するものであった。その要因の一つには、2年生は基礎看護学実習Ⅱが終了した直後であったことが考えられる。林ら<sup>21)</sup>は、学生の看護の肯定的イメージが低下するのは、入学後の授業と臨地実習が影響しており、入学時に抱いていた「社会通念的な憧れの段階から現実の厳しさを直視した反応によるもの」と述べている。学年進行とともに看護のイメージや自己あるいは仕事との適合性がネガティブな方向に変化することは、キャリア発達の初期ステージでは必然の変容であり<sup>22)</sup>、「入学後の理想的・観念的なイメージが、より現実的・具体的な実像方向に修正されたため」<sup>10)</sup>と理解することができた。また、1年生は看護の肯定的イメージが最も高かったが、専門的に看護について学び始めて間もない1年生のイメージは、自ら主体的・内発的に形成されたものであるか疑問がある。なぜなら、1年生が2、3年生より有意に肯定的イメージが高かった、「穏やかな」「温かい」「親しみやすい」「協調的な」の項目は、一般に病気をもつ患者や家族への対応として人間的に必要とされイメージで、社会が伝統的に期待してきた観念的・理想的イメージの傾向が強く、1年生はそのまま容認していたと推察できる。

今回の2年生が行った基礎看護学実習Ⅱは、1年次に実施した基礎看護学実習Ⅰが対象理解としてのコミュニケーションと日常生活援助に目標をおいていたのに対し、受け持ち患者の看護過程の展開を目標として実施していた。これまでの教科書やペーパーペイシエントによる看護過程演習とは異なり、実習現場では、疾患をもつ患者が対象



であり、常に流動的に変化している状況を判断しながら、実践現場に即した知識と技術が必要となる。当然学生は、基礎看護学実習Ⅰとは異なり実習指導者および教員からは、より専門的な知識や技術が求められ、それゆえにこれまで抱いてきた優しさや温かさなどの理想や夢では通用しない現場の厳しさ・困難に直面したことが予想され、こうした実習での経験が、そのまま今回の2年生の看護のイメージに反映したものと考える。また、実習を経験した2年生、3年生は、1年生に比べ看護の人間的な内面性に関する項目と、2年生は、職業的な魅力について低かった。実習では、看護学生は、看護師に対して強い関心をもっているといわれ、実習で接した看護師の態度や行動を敏感に感じとっていたものと考えられる。「看護は人間と人間の相互作用によって成立する職業であり、学生は教養を深め自分の人間性を幅広く高めていくことは必須の課題である」<sup>10)</sup>といわれるように、社会経験の未熟なゆえに実習で接する対人間的な関わりは普段の学生同士の関係性とは異なり、緊張感や困惑に直面し現実の厳しさや困難さを痛感したのかもしれない。

Hinshaw, A. S.<sup>23)</sup>は、アメリカの看護師の職業社会化のモデルとして、内在化にいたるまでの6段階のプロセスを提示している。Hinshawによると、第一段階は「現実に影響されない看護のイメージ」で、これは看護の理想化されたイメージと期待に特徴づけられるという。第二段階は、「不一致」で、これまでイメージしてきたことと現実の違いに気づく段階で、第三段階は、「同一視」で、教師や看護師を役割モデルとしてそれと自己を同一視する段階であるという。そして第四段階は、「役割シミュレーション」でモデルに合わせて役割をシミュレーションする段階で、第五段階は、新人看護師の経験で「揺らぎ」、第六段階は、「内在化」であるという。Hinshawの職業社会化のモデルに従うなら、本結果で示された学年進行とともに学生の肯定的イメージが低下したのは、第一段階から第二段階そして第三段階へと進むプロセスではないかと解釈できた。すなわち、1年生の看護のイメージは理想や客観的な社会的通念や入学後の動

機に基づいて形成された影響が大きい。2年生は基礎看護学実習を経験することで現実を直視し、これまで描いてきたイメージとのギャップに戸惑い、3年生は、現実を即して看護のイメージを主体的に具体的・現実的な実像へと修正しながら、将来の自己の職業観に照らし同一視しようと模索・探求している姿で、つまり職業社会化への発達過程ととらえることができた。

### 3. 個人属性要因との関連

看護のイメージ4因子と個人属性要因群分けとの一元配置分散分析では、「大学を志望した動機」と「看護学部を選択した理由」の群分けで、【社会的価値】と【職業的魅力】因子に有意な差がみられたが、他要因としてとりあげた「医療の受療経験」「家族に保健医療職がいるか」「卒業後の進路志望」については、有意差はみられなかった。先行研究では、看護職に従事しているものが身近にいる学生は、そうでない学生より「面白い、好きな、親しみやすい、温かい」などの項目からなる看護の特性因子の得点が高く、卒業後の進路志望として看護職を希望する学生は看護の肯定的イメージが高いとの報告<sup>24)</sup>があるが、本調査ではそれら要因との関連はみられなかった。多くの先行研究が、入学動機が積極的な学生は看護のイメージを肯定的にとらえているとの結果<sup>9), 10), 14), 19)</sup>にしたがうものであった。すなわち、看護職になることが夢であると学部を選択したり、実際に大学を見に来たり調べたという積極的な入学動機をもって入学した学生は、他者にすすめられたり資格重視で看護学部を選択し入学した学生より、有意に看護の肯定的イメージは高く、特に看護の【社会的価値】と【職業的魅力】因子について高くとらえていた。このことから、看護職になることが自分の夢であるとして学部を選択した学生は、そうでない学生より看護への肯定的イメージは高く、看護について社会的に価値や責任がある重要な職業であり、同時にやりがいのある魅力的な職業であるにとらえていることがわかった。反対に、資格をとれば就職に困らないから、あるいは家族や知人もしくは進路指導の教員にすすめられたとして、将来の職業観が漠然とした理由



で学部を選択した学生は、看護の社会的な価値や職業的な魅力についてはネガティブにとらえる傾向にあり、さらに2年生と3年生は、看護の人間的な内面性や態度についても、自由がなく激しく苦しいという傾向でとらえていることがわかった。

学年で比較したところ、こうした学部選択理由『自己夢実現群』と『他者推薦志向群』で、看護のイメージが拮抗する関連性は、1年生は【社会的価値】と【職業的魅力】因子に示されたが、2年生、3年生は、【職業的魅力】因子だけにみられ【社会的価値】因子にはみられなかった。これについては、真鍋<sup>9)</sup>が、看護師を目指さずに入学した学生のグループの方が、働きがい・外観的特性・就労状況の因子で、看護師を目指して入学した学生より有意に得点が高かった結果から、「学年が進むにつれて現実感が芽生え、入学時に期待していた看護師イメージと異なることを認識するためではないか」と述べており、本調査でも同様のことが考えられた。【社会的価値】因子の項目平均値を学年ごとにみると、「看護職になることが自分の夢だった」学生はわずかではあるが低下傾向で、反対に他者に推薦されたり資格を重視して入学した学生は増加傾向にあった。つまり入学動機が消極的だった学生は、授業や実習など看護を専門的に学ぶ過程において、看護の社会的価値に関するイメージが肯定的に変化し、一方で入学動機が積極的な学生でも、現実に直面しこれまで抱えてきたイメージとのギャップが生じたことでネガティブに変化したことが考えられる。興味深いのは、有意差をみとめたのは、【社会的価値】と【職業的魅力】の2つの因子だけで、他の【職業的専門性】と【人間的特性】の因子には有意差はなかったという点である。看護職になることを夢みて主体的に入学した学生の否に関わらず、全体的に学生は、看護という職業は専門的であると感じているとともに、働くことの厳しさ大変さについても感じていたものと考えられた。

#### 4. 教育への示唆

A 大学の学生特性として、大学に入学する動機が、公立大学であり家から近いから

などの条件重視で志望してくる学生が7割と圧倒的に多く、看護学部を選択した理由では、看護職になることを希望し選択する学生は半数以下という実態であった。入学動機が積極的な学生は、看護の肯定的イメージが高い傾向にあることが示されたが、入学動機が消極的な学生でも専門的に看護を学ぶ過程の中で肯定的イメージへと変化し、反対に入学動機が積極的だった学生がネガティブな傾向になることが考えられた。また一概に、教育進度とともに学生のイメージがネガティブに傾くことは、学生が混乱していたり職業的アイデンティティの拡散を起こしているとはいいがたく、むしろ学生は個々に学びの過程をとおして現実を直視することで、主体的に将来の自己の職業観と自身を同一視しようと模索・探求しながら歩んでいる職業社会化への発達過程ととらえることができた。

白鳥は、こうした学生の職業社会化のプロセスに最も影響を与えるのは、実習経験であると指摘し、職業観について「自己に内在化するためには、これまで観念的にとらえてきた考えと現実が違うという事実をしっかりと認識すること、そしてその事実を肯定的に受容するためには、学生がモデルとする教師や看護師が必要である」<sup>2)</sup>と述べている。つまり、「学生が社会性を備え、専門職に欠くことのできない諸要素を身につけるためには、臨床実習での質の高い経験が最も重要である」と述べている。臨地実習の目的は、実習の場でしか体験できない具体的、個別的な経験を学内で学んだ知識、技術、態度と結びつけ、看護活動を展開できるようにすることであるが、「ただ臨地実習で経験を積み重ねていけば、これが自然に身につくわけではない。複雑で、多様な要件を含んでいる実習環境のなかで学習を効果的にするためには、教員や指導者がその状況を総合的に捉え、どのような学習が可能かなどの判断をしながら、意図的に関わる必要がある」といわれ<sup>25)</sup>、そのためには、教員の臨床能力はますます重要になる<sup>2)</sup>と考える。学生が、自己の職業観に照らし看護について現実に即して具体的に考えていくためには、看護実践の場での観察・経験は不可欠であり<sup>26)</sup>、学生が社会



的な役割を認識し主体的に職業人としての社会化が図れるよう、実習場面での教員の支援の重要が示唆された。しかし、全てが看護職を目指す学生ではなく、卒業後の進路志望について「まだ決まっていない」との回答も得ていることから、個々に応じた職業アイデンティティの形成を促す支援が必要と考える。また A 大学看護学部の学生特性として、看護職になることを希望して入学する学生の割合が少なく、通学環境や資格を重視したり他者にすすめられて入学する学生が多いことが明らかになったことから、学生個々を理解した教育的支援が必要と考える。

## VII. 結論

看護学生が専門的に教育を受ける過程の中で、どのように看護のイメージをとらえているのか、学年進行に伴いどのような違いがあるのかを明らかにし、看護のイメージに影響する要因について検討した結果、以下のことが明らかになった。

1. 看護学生 1～3 年生の看護のイメージは、全体的に肯定的な傾向にあり、1 年生が最も肯定感が高く、次いで 3 年生、2 年生の順だった。
2. 看護のイメージで最も肯定感が高かったのは「責任感の強い、重要な、専門的な」などの社会的な価値に関する項目で、ネガティブな傾向にあったのは「自由な、穏やかな、楽しい」などの人間的な内面性や態度に関する項目だった。
3. 因子分析の結果、【社会的価値】【職業的専門性】【職業的魅力】【人間的内面性】の 4 因子が抽出され、項目平均値は、【社会的価値】が最も高く【人間的内面性】が最も低かった。
4. 因子の学年比較では、【職業的魅力】の肯定的イメージが 2 年生は 1 年生より有意に低く、【人間的内面性】の肯定的イメージが 1 年生に比べ 2 年、3 年生は有意に低かった。
5. 関連要因としては、入学動機や学部を選択した理由が積極的な学生は看護の肯定的イメージは高く、他者に推薦されたなど消極的な学生はネガティブにとらえている傾向にあった。

6. 2 年生、3 年生が 1 年生より看護のイメージが低下する理由として、学習が進み実習を経験することで観念的・理想的なイメージから現実的・具体的なイメージへと変化した職業アイデンティティの発達過程ではないかと考えられた。

## VIII. 本研究の限界

今回は、3 学年を対象に実施した横断的調査研究であったため、看護学生全体の特徴を述べるには限界があった。また、引用文献の多くが専門学校、あるいは短期大学の 3 年課程の看護学生を対象にした結果であったことから、学習進度には違いがあり一概に同学年でも比較できない側面があった。

以上をふまえ、今後は、4 年生を含めた全学年を対象に横断的・縦断的に調査を実施し、学年進行にともなう看護のイメージの経時的変化と特徴を明らかにし看護大学生への教育的示唆を得ていきたい。

## 謝 辞

本調査を行うにあたりご協力いただきました A 大学関係者ならびに看護学生の皆様に、心よりお礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 園田雅代, 中釜洋子: 職業的同一性を通してみた中堅女子社員の研究その 1 SCT 法による検討. 日本心理学会第 51 回発表論文集, 554, 1987.
- 2) 白鳥さつき: 看護学生の職業社会化に関する研究, 山梨医科大学紀要, 第 19 巻, 25-30, 2002.
- 3) 岡本祐子: アイデンティティ生涯発達論の射程, 554, ミネルヴァ書房, 1987.
- 4) 江口瞳: 看護師イメージの因子構造と学年進行による看護師イメージ得点の変化, 日本看護研究学会雑誌, 29(4), 71-80, 2006.
- 5) 寺田克也, 東サトエ: 看護学生の看護師イメージと職業的アイデンティティの関係性, 日本看護研究学会雑誌, 33(3), 169, 2010.
- 6) 東洋他編: 心理学用語の基礎知識, 522, 有閣ブックス, 1999.
- 7) 水島恵一: イメージの人間学, 誠信書房, 130, 1983.



- 8) K.E. ボウルディング, 大川信明訳: ザ・イメージ生活の知恵・社会の知恵, 5, 誠信書房, 1979.
- 9) 石塚百合子, 白佐俊憲他: 看護婦イメージの研究, 看護教育, 23(7), 446-453, 1982.
- 10) 真鍋淳子, 野尻雅美他: 看護学生の看護婦イメージの研究—大学生と短大生の比較—, 看護教育, 35(6), 427-433, 1994.
- 11) 曾根原純子, 小林千世: 看護学生の看護婦イメージに関する研究—理想と現実の学年別比較—, 信州大学医療技術短期大学紀要, 21, 77-90, 1995.
- 12) 和田佳子, 小林ミチ子他: 看護のイメージに関する研究 (1) 新潟県立看護短期大学紀要 第5巻 3-7, 1999.
- 13) 小林ミチ子, 他: 看護のイメージに関する研究 (2) —学年別による検討—, 新潟県立看護短期大学紀要 5巻 9-16, 1999.
- 14) 謝花美佐子, 他: 看護学生の看護婦イメージの学年別による検討 動機と意思との関連, 看護教育, 25(2), 89-94, 1984.
- 15) 吾郷ゆかり, 高橋恵美子: 看護学生の看護婦イメージの変化—3年間の追跡調査の分析より—, 島根県立看護短期大学紀要, 第3巻, 61-68, 1998.
- 16) 板垣恵子, 菊池美恵子他: 1年次「基礎看護Ⅰ」実習後と2年次終了時のイメージの変化—病院, 患者, 看護婦, 看護にイメージ分析—, 東北大学医療技術短期大学部紀要, 2(1), 43-50, 1993.
- 17) 瀧野由夏, 加藤法子他: 基礎看護実習Ⅰの実習前後における看護のイメージ変化の比較検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), 89-96, 2008.
- 18) 板垣恵子, 菊池美恵子他: 「基礎看護Ⅰ」実習前後のイメージの変化—病院, 患者, 看護婦, 看護にイメージ分析をとおして—, 東北大学医療技術短期大学部紀要, 1, 56-67, 1992.
- 19) 石井範子, 平元泉他: 看護学生の看護に対するイメージの変容について (Ⅱ) —縦断的方法による検討—, 秋田大学医療技術短期大学紀要 5, 51-56, 1997.
- 20) 大谷和代, 松浦妙子: 看護学生の入学動機別看護婦イメージ等の経年的変化から探る看護教育の課題, 看護展望, 22(9), 78-85, 1997.
- 21) 林喜美子, 松本明美他: 看護婦と看護職にのイメージに影響を及ぼす諸要因, 川崎医療短期大学紀要, 61-66, 1990.
- 22) 江幡美智子, 渡邊順子他: 看護学生の職業意識と職業志向, 名古屋大学医療技術短期大学紀要, 3, 11-19, 1991.
- 23) Ada Sue Hinshaw et al, Suzannw Leetham, JoanL.F.Shaver: Handbook of Clinical Nursing Research, 19-30, Sage Publications, 1999.
- 24) 工藤由起子, 石井範子他: 看護大学生の看護に対するイメージ—入学時における家族背景・入学動機と卒業後進路志望との関連から—, 秋田大学医学部保健学科紀要, 11(2), 2003.
- 25) 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子他: 看護教育における授業設計第2版, 101, 医学書院, 2001.
- 26) 田島桂子: 看護実践能力育成に向けた教育の基礎, 1, 医学書院, 2004.



Abstract

This study aims to examine the characteristics of the image of nurses in the minds of first-, second-, and third-year nursing students, and the associated personal factors that make up this image. A cross-sectional questionnaire survey was conducted using the 32 items in Osgood's semantics differential method, and various factors associated with personal characteristics. A total of 218 (first year: 71, second year: 89, third year: 58) responses were analyzed.

The analysis showed that first-year students had the most positive image of nurses, and the second-year students, the most negative. An exploratory factor analysis suggested that the image of nurses comprises four factors: "social values," "professional expertise," "professional appeal," and "human personality."

The associated personal factor analysis revealed that the students who are aiming to become nurses tend to have a positive image of nurses, while those whose motivation is ambiguous tend to have a negative view. In particular, social values and professional appeal differed significantly between the first- and second-year students.

We find that nursing experience is influential, and hence, suggest that it is important to provide educational support as per the individual's learning process.

key words : nursing student, image of nurses, influencing factor, comparison between the three years, nursing education